

細川工業

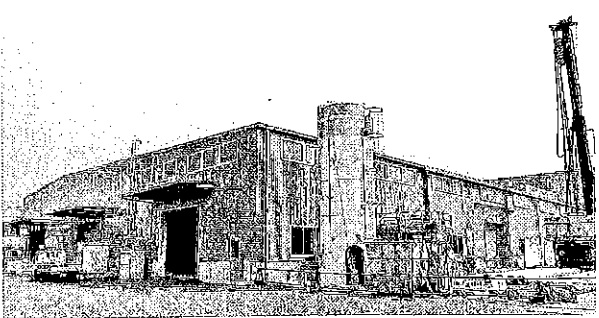
鋼板コイル自動ラック新設

加工設備
も更新

生産性20%引き上げ

コイル置き場の跡地は、システム建築メーカーの屋根材製造ラインを移設する予定。長さ14.5mまで、板厚0.5mmの成形品を加工する。ライン改造や移設作業を1年かけて行い、来年5月の稼働を目指す。

金属屋根・壁取付工事を主力事業とする細川工業（本社・広島県福山市大門町、社長・山手紀隆氏）は、業容拡大の柱として位置付けている金属屋根・壁成型加工業務をさらに強化するため、本社工場横に鋼板コイル保管自動ラックを新設する。3月中旬に建設に着手し、8月に本稼働する予定。構内のコイルを全量収納し、搬入搬出作業の効率化と在庫圧縮を図る。コイル移設で空いたスペースは新規事業に活用。同時に加工設備も一部、老朽更新する。本投資効果で生産性は20%引き上げる。来年度以降の薄板加工量は、現行の月産150トから新規事業分50ト上乗せの200トとなる見通し。



自動ラックの建設が進む本社工場

同社は各鋼板メーカー手掛ける。特定メーカーからの金属屋根・壁に偏らない独立系工場の成形加工請負業務を場として、中国地区に自前の成形工場を持たない鋼板メーカーや、地場二次製問屋から長尺品の加工依頼を受け、業績を伸ばしている。屋根材成形加工の依頼増を吸収するため、

4期計画で工場拡張に取り組んでいる。3期工事で敷地内の事務所を移設し、工場建屋を増築して縦横比60分の正方形とした。今回の自動ラック倉庫建設などが拡張工事の最終段階で、総投資額は2億円。建設はJFEシビルが担当し、屋根壁にJFE鋼板製品を使用。ラック規模は33.5×5.4m、高さは14m。自動搬入搬出システムはIH-Iを採用した。3ト未満の鋼板コイル350本が収納可能となる。	2016年4月8日(金)鉄鋼新聞西日本版
---	----------------------

2016年4月8日(金)鉄鋼新聞西日本版

業安全性と保管・品質の向上も期待でき、倉庫建設と並行して、屋根材の断熱材裏貼り機とスリッター設備を各1基ずつ、最新機種へと更新することで、生産性を引き上げ、常態化していた2段階みが解消され、作

同社は全量支給材による債加工のみで、高い利益率を誇る。前12月期業績は売上高9億円。今期も横ばいを想定するが、新ライン稼働後の来期以降は10億円台に乗せていく計画。